

## 大学の世界展開力強化事業（平成23年度採択）事後評価結果表

大 学 名	岡山大学
整理番号	A-I-8
事 業 名	東アジアの共通善を実現する深い教養に裏打ちされた中核的人材育成プログラム

### ◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価)  <b>A</b>	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
(コメント)	
<p>本事業では、東アジア型グローバル教養教育システムという体系に集約して、学部から大学院にわたり多様な専攻の学生交流が図られた。本取組を契機にダブルディグリーが実現し、4学期制や Functional GPA の採用が質の保証を伴った枠組み形成に活かされている。</p> <p>外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備では、アカデミック・アドバイザー、キャンパス・アジア事務局・専任教員、グローバル・パートナーズ担当教員など、複数の教職員組織が対応しており、中国・長春の岡山大学海外事務所にも専属スタッフが配置され、受入と派遣の支援を担う体制ができている。</p> <p>目標の達成状況をみると、外国人留学生の受入については多少下回っているが、派遣については上回り、ほぼ計画通りに達成された。SGU 事業とも連携して、全学的な取組になっている点は評価できる。</p> <p>改善が望まれる点としては、依然として「共通善」という概念がどのように学生に浸透し、幅広い領域の「接着剤」になったのかが明確に示されていないことである。基本となる概念が曖昧だと、全体としてどのような人材を育てたいのかが不明確なままになってしまうため、その点を評価する枠組みや方法を確立する必要がある。</p> <p>しかしながら、社会科学系国際共同大学院の設立が3大学で確認されており、ジョイントディグリーを見据えたダブルディグリー協定が締結されていることは、先例となる取組であり、今後の展開や大学教育のグローバル展開力の強化に対する貢献が期待される。</p>	